

## 平成 30 年度 第 2 回千代田区図書館評議会 議事要旨

### 【日時等】

実施日 平成 30 年 12 月 10 日（月） 10：00～12：00

場 所 千代田区役所 教育研究室

出席者 評議会委員（6名）

荻原 幸子（会長）、緑川 信之（副会長）、青柳 英治（評価部会長）

木原 一雄、小林 敏、平林 奈緒恵

ゼネラルマネージャー 宮尾 賢一

千代田図書館長 小出 元一

日比谷図書文化館長 大島 康平

千代田区地域振興部文化振興課長 永見 由美

欠席者 評議会委員（3名）

常世田 良、小野 祥之、隈部 雅嗣

### 【資料】

—当日配布資料—

- 1 平成 30 年度第 2 回千代田区図書館評議会議事次第
- 2 平成 29 年度千代田区立図書館の運営・サービスに係る評価について(抜粋)
- 3 平成 30 年度千代田区立図書館業務計画書に関する質問等

### 【次第】

#### 1 開会

- (1) 文化振興課長挨拶

#### 2 報告

- (1) 千代田区立図書館職員の待遇に関する調査状況【評価部会長】

#### 3 議題

- (1) 平成 29 年度千代田区図書館評議会・評価部会からの提言に対する対応状況について
- (2) 平成 30 年度千代田区立図書館業務計画書に関する質問等について

#### 4 その他

- (1) 提言に向けた意見・要望等の作成(依頼)
- (2) 次回日程
- (3) その他

### 【議事経過】

#### 1 開会

<(1) 文化振興課長 挨拶>  
文化振興課長より挨拶。

#### 2 報告

<(1) 千代田区立図書館職員の待遇に関する調査状況【評価部会長】>  
会 長： 本日は、評価部会の活動状況についての報告と、昨年度の提言に対する今年度の取り組み状況について説明いただき、その後、皆様からのご質問に関して回答いただくということで進めさせていただきたい。  
では、最初に評価部会の活動状況から報告をお願いします。  
部 会 長： 評価部会では、千代田区立図書館職員の待遇に関する調査ということで、今年9月に、区立図書館職員の方々と指定管理事業者を対象に質問紙調査を行った。現在、評価部会で集計・検討している最中である。詳しくは次回の評議会において報告させていただきたいと考えている。  
委 員： 今日、調査票を見せてもらえないのか  
部 会 長： 次回、調査結果と一緒に報告する。  
委 員： 報告書に対する議論があった場合の対応を決めておいたほうがいいのではないかな。  
会 長： 評価部会の報告書に対して、評議会でも議論する予定はない。ご意見がある場合は、評議会の席で伺いたい。  
委 員： 報告書については、感想を述べる程度しかできないということか。  
会 長： そうである。評価部会の報告書について議論するのではなく、評議会と評価部会それぞれの意見を出すということが今期の方針としている。  
今回の調査では、多くの職員の方から貴重なご意見をいただくことができた。指定管理事業者の方々には感謝している。  
それでは、評価部会では引き続きお願いしたい。

#### 3 議題

<(1) 平成29年度千代田区図書館評議会・評価部会からの提言に対する対応状況について>  
会 長： 平成29年度千代田区図書館評議会・評価部会からの提言に対する取り組みや進捗状況について報告いただきたい。  
ゼネラルマネージャー： 前回の回答で不十分なところや曖昧な表現の部分について、改めて、補足説明や進捗状況を、資料「平成29年度千代田区立図書館の運営・サービスに係る評価について(抜粋)」に沿って説明する。

①ホームページの公開停止の影響で、特に、区外利用者の減少が大きかったが、全体的に入館者は回復傾向にある。4月から9月ごろまでは、85%、90%、95%と少しずつ戻ってきて、10月には昨年比103%という状況まで回復してきている。ホームページの公開停止以外の要因については特定できていないが、入館者は徐々に増加している

②組織については、前回、業務中心の組織図を検討すると回答したが、同じ業務をやりながら、部署名が違ったり、報告書が館ごとに分かれていたというようなところが、わかりづらい要因になっているのではないかと思っている。来年度の業務計画から、5館一体体制ということで、千代田区立図書館の中の、千代田図書館、日比谷図書文化館、四番町図書館、各分館という形で報告をしていくように体裁を改める。組織図についても、業務内容を加えるなど工夫をしたい。

③パフォーマンス指標については、上半期を終わって、それぞれの項目について上半期の総括をし、下半期に向けて進めている。

④職員の待遇面については、資料に記載しているとおりである。

⑤読書振興センターについても、資料のとおり、学校現場とコミュニケーションを図りながら進めている。

⑥児童サービスについては、区立図書館統一の夏休み・冬休み版のブックリストを作成した。そのほかは計画書どおりに進めている。

千代田図書館長： ⑦出版にまつわる本棚については、「特別コレクション」と、「出版にまつわる本棚」の構築方針が一緒になっていたもので、今年度、構築方針を2つに分け構築していくことにした。

ゼネラルマネージャー： ⑧地域資料・参考資料の収集についても、資料のとおり漏れのないよう収集に努めている。

千代田図書館長： ⑨商用オンラインデータベースについては、今年度講習会を1回開催しており、これからも継続していきたいと思っている。

ゼネラルマネージャー： ⑩貸出・予約サービスについては、区民の予約冊数について、変更を検討している。

会 長： 国会図書館のデジタル化資料サービスについては、この後の質問の回答でお願いしたい。

ゼネラルマネージャー： それでは、⑪書籍消毒器については、来年度の予算として昌平・神田まちなかど図書館への導入を要求している。

委 員： 設置場所は確保できたのか

千代田図書館長： 学校図書館のスペースも含めて検討していきたい。

委 員： ⑫、⑬、⑭については、後の質問のところで伺いたい。

会 長： それでは、次に、評価部会からの提言の「読書振興センター」については、組織図と同じように見直す予定はあるのか。

ゼネラルマネージャー： 組織体制の表現をわかりやすくしたい。来年度の業務計画に盛り込みたいと考えている。2月頃を目途に、来年度の業務計画(案)を区へ提出する予定なので、次回の評議会の際に、評議会のご意見も伺えると思う。

千代田図書館長： 子ども読書活動推進計画については、現在区で、第3次計画を策定中なので、

その計画に則って対応していきたい。

会長： では、今までのところで質問等はあるか。

委員： ⑦出版にまつわる本棚のところで、特別コレクションと2つに分けて構築すると言っていたが、特別コレクションとは何か。

千代田図書館長： 千代田図書館で所蔵している「内務省委託本」、「古書販売目録」、「一橋・駿河台図書館業務資料」の3つのコレクションと、「出版にまつわる本棚」の方針を分けた。

会長： 前回、再度、ニーズ等を調査し、再構築していきたいという報告があったが、再調査は実施したのか。

千代田図書館長： まだ検討中の部分もある。

会長： 提言ではないが、前回、パフォーマンス指標のことで、ビジネス資料の充実を掲げている以上は、目標値は一般のクリエートする書庫と同じなのはどうかという意見が出ているので、パフォーマンス指標を策定する際、評議会からの意見ということで検討いただきたい。

ゼネラルマネージャー： 今年度第1回目のアンケート結果においても、ビジネス資料の満足度はあまり上がっていないので、現実的には難しいところだが、検討はしていきたい。

会長： むり張りをつけるというマインドでお願いしたい。

ゼネラルマネージャー： 了解した。

会長： 以上、提言については、来年度に向け対応をお願いしたい。

#### < (2) 平成30年度千代田区図書館業務計画書に関する質問等について >

会長： 委員の皆様から寄せられた平成30年度の業務計画についての質問等について、指定管理事業者の方から回答していただきたい。

委員： 各委員が提出した質問の原文は配付しないのか。原文のほうが質問の趣旨が正しく伝わるのではないか。

会長： 多くのご質問をいただいております、本日は時間の制約もあるので一覧にまとめている。質問の趣旨が反映されていない場合は、各自補足していただきたい。委員ご自身からの希望があれば、質問の原文を区から指定管理事業者へ送付するようにしたい。

では、平成30年度の業務計画書に沿って進めていく。また、時間の関係もあるので、回答いただく項目を絞らせていただきたい。

それでは、業務計画書1頁の質問No.1の目次について、千代田図書館と日比谷図書文化館の目次構成を統一できない理由はあるのか。

ゼネラルマネージャー： 千代田図書館と日比谷図書文化館は、以前異なる企業グループが運営し、それぞれ計画を策定していたという経緯があったことで統一が間に合わなかった。次回からは、目次構成も統一するようにしたい。

会長： 5館一体体制というのが特徴なので、よろしく願います。

では次は、業務計画書3頁の質問No.2で図書館資料収集計画についてになるが、これは、質問No.64以降の資料収集計画に関する質問も含めて、現在の収集計画についての全般的な見解を伺いたい。

ゼネラルマネージャー： 資料収集計画を年度途中で修正することはないが、個別に毎日リクエストを

受け付けている。また、年2回のアンケートを参考に対応すべきものは対応するという方法を取っている。

委員： 収集計画をつくり直す計画はないのか。書いてあることとないことの落差がありすぎる。また、分担収集についてはどこに記載があるのか。

ゼネラルマネージャー： 資料収集計画は毎年見直している。分担収集については、各館の収集計画の冒頭のところに、特徴を記載している。

委員： 分担収集について、収集計画からは読み取れない。

会長： 微調整も含めて、来年度も変更があるという理解でよいか。

千代田図書館長： 次回から、収集計画の書き方を見直し、統一するようにしたい。

会長： 次の質問 No.3 の区民登録率についてはどうか。

ゼネラルマネージャー： 平成 29 年度末現在で、区民登録率は全館平均で 25.1%である。現状で満足しているということではなく、常に区民の方により多く利用いただくことは考えている。

会長： 質問No.6 のホームページ停止後の利用状況については、先ほど回答をいただいたとおり、10月になって103%まで回復したということによいか。

委員： 入館者数は回復しているようだが、貸出数はどうか。

ゼネラルマネージャー： 貸出数についても、同じような傾向で増えている。

会長： 利用回復のための対応は考えているのか。

千代田図書館長： ビジネスマン向けパンフレットを作成して広報することを検討している。

ゼネラルマネージャー： 統計的にみると、区民の方の貸出数への影響は小さかったが、情報が入らない区外の方の利用が減ったというのは顕著に出ていた。そのような方たち向けのPRをしていきたいと考えている。

会長： では、次の質問No.7 新刊書の配架時期については、配架までの日数を教えて欲しい。

ゼネラルマネージャー： 発注まで2週間かかっている。

千代田図書館長： 毎週月曜日に新刊リストが届き、翌週の木曜日の選定会議で協議のうえ、その翌週の月曜日に発注する流れとなっている。発注までに2週間、その後納品になるので、発行から3～4週間程度は時間をいただいている。各館で調整をするための時間が必要なのでご理解いただきたい。

委員： 出版社に配慮しているのではないか。

千代田図書館長： そのようなことはない。

会長： では、質問No.10 の児童書の蔵書についての見解を伺いたい。

千代田図書館長： 千代田図書館の児童書が少ないということは認識しているが、庁舎管理上、書架を増設できないという物理的な要因がある。基本書と新しいもののバランスをどのようにするかが今の課題である。

会長： 業務計画書4頁の質問No.12 の組織図について、パークサイドプラザとMIWについてはどうか。

ゼネラルマネージャー： パークサイドプラザ区民図書室と、MIWは所管が異なっており、図書館の管理ではない。

委員： 所管が違うことは認識しているが、図書館のホームページに開館時間程度は掲載しても良いのではないか。リンクも分かりにくい場所にある。

ゼネラルマネージャー： ご要望として伺いたい。

会長： 次は、業務計画書 5 頁の質問No.13 の 9 月に実施した蔵書点検結果について、不明率などをポイントに結果報告をお願いしたい。

ゼネラルマネージャー： 一覧表を配付する。不明率については、千代田は 0.21%、日比谷は 0.05%、四番町は 0.21%、昌平まちかどは 0.12%、神田まちかどは 0.48%で、館平均で、0.15%という状況である。日比谷以外は前回より少し不明率が上がっている。蔵書点検はこれまで年 1 回実施していたが、システムリプレースに伴い、今回は、前回の点検から 1 年半たって実施している。実施時期が半年延びたことも不明率を上げた 1 つの要因と考えている。図書館の構造上死角が多いと不明率が高目に出ていることもある。防犯カメラの増設や、昌平、神田に関しては、IC タグシステムの導入なども視野に入れながら、不明率を下げよう検討していきたい。千代田においては、構造上エレベーター前にゲートが設置されているため、アラームが鳴っても対応が難しいということもある。また、閉架の点検が終了していないため不明率が高くなっている。

委員： 千代田の 10 階にもゲートは設置されているのか。

千代田図書館長： 10 階にも設置している。不明率が若干増えつつあることについては、対策を取っていきたい。

会長： では、次の質問No.16 パスファインダーに関する今年度の作成状況と利用状況はどうか。

千代田図書館長： 平成 30 年度は、「出版について調べる」と「江戸図について調べる」の 2 件を用意している。利用状況については統計を取っていないが、ビジネス関係のパスファインダーは毎週ラックに補充する程度なくなっているものもある。

また、初級、中級、上級というレベル分けはしていないが、今後、「夏目漱石を調べる」「泉鏡花を調べる」という既にあるものに対して、例えば「千代田区ゆかりの文学者を調べる」というような上位のものを作成するといった形を考えていきたい。

会長： 次は、質問No.18 からNo.21 までの予約サービスについてのご意見・ご要望に対する見解をお願いしたい。

千代田図書館長： 予約サービスについては、千代田区立図書館では「リクエスト」ではなく、「購入希望アンケート」という形式をとっている。「購入希望」が多い資料については、基本的には優先して購入しているが、収蔵に限界があるので、全体の蔵書バランスを考慮しながら選定している。リクエストを主体にすると、バランスを崩すこともある。また、千代田区の場合は、区民以外の方の利用も多いので、現在の方式を継続していきたいと考えている。

委員： 区民の予約冊数は増やさないのか。

千代田図書館長： 現在検討している。

会長： では、質問 No.22 の国立国会図書館デジタル化送信サービスの利用拡大についてはどうか。

千代田図書館長： 現状、出版関係や中小企業の方を中心にニーズがあり、利用も増加傾向にあるが、端末が 1 台のため急激に利用が増えると対応が難しい。

質問 No.23 のプリントサービスについては、既存のプリントサービスについて

いても厳格に管理しなければならなくなるため、利用者の利便性を考慮して見送っている。

質問No.24の歴史的音源サービスについては研究させてほしい。

会 長： 業務計画書6頁の質問No.25「配架」の記述についてはどうか。

千代田図書館長： 「配架」については、ご指摘のとおり、「排」という字が図書館学的には正しいと思うが、「排」の字が、退けるという意味に使われることが多いことから、「配」のほうが一般的になっており、国会図書館でも「配」を使っている。

委 員： 業務計画書の中で表記が統一されていなかった。

千代田図書館長： 統一するようにする。

会 長： 業務計画書7頁の質問 No.26 視覚障害者の利用状況等については。

千代田図書館長： 視覚に障害のある方々に対して、点字やDAISYデータなどさまざまな暮らしに密着した情報を提供するネットワーク「サピエ」に加入してから、視聴覚障害者の方の来館があるようになり、現在4名が定期利用されている。

対面朗読では、社会福祉協議会加盟のボランティアの方に朗読を依頼しているが、ボランティアの方が多忙で日程調整が難しい状況が発生している。中長期的には、朗読ができる職員の養成を考えている。今年度は、東京都立図書館の障害者サービス部会からの派遣の利用を検討している。

会 長： 目にみえる部分での改善はないのか。

千代田図書館長： 特にない。

会 長： 次の質問 No.27「かがやきプラザ」との連携はどうか。

千代田図書館長： かがやきプラザの担当者と同面談したところ、かがやきプラザに来ている方に、イベントのチラシやアンケートを配付しても、過去の例からほとんど回収は期待できないということが確認できた。そこで、区の介護施設である「いきいきプラザ」と「ほほえみプラザ」などとの連携を検討していきたいと考えている。

会 長： では次、業務計画書8頁の質問No.30の古書店との連携事業についての実績は。

千代田図書館長： 古書店の方からは、図書館で「としょかんのこしょてん」を見て、購入してきた方がいるということを知ったことはあるが、実績は把握していない。

会 長： 紹介実績も把握していないのか。

千代田図書館長： 把握していない。

会 長： 次の質問No.31、他の業界とはどうか。

千代田図書館長： 図書館は公共の施設であるため、特定の企業を紹介することは避けている。業界全体のイベントなどの中で何社か紹介していくということはある。

委 員： 図書館と古書店の連携というのはわかりやすいが、逆に、外から見ると、なぜ公共である図書館で古書店だけを紹介するのかと思う。例えば、千代田区の服の卸売やユニホームなど、業界にまつわる本などがあれば、そういう展示もおもしろいのではないかと思った。

千代田図書館長： 図書館の企画の立て方で宣伝にならないようにすることはできると思う。

委員： 印刷業などもいいのではないか。

会長： これはご提案ということで受けていただきたい。

次、質問 No.32 の東京オリンピック・パラリンピックへの取り組みについてはどうか。

千代田図書館長： ロゴの使用から「東京オリンピック・パラリンピック」という固有名詞まで、使用する際には、オリンピック委員会への申請手続きが必要になる。そのため、図書館ではスポーツの一環という扱いで事業を行っている。現在、千代田では、「スポーツの秋」、「スポーツボランティア」という名目で展示を行い、日比谷では区民講座で「世界の国旗とオリンピック」などを企画している。今後オリパラが近づいてくれば、もう少し踏み込んで実施していきたいと思っている。

会長： 次は、質問No.33 の皇居等に來ている観光客は來ているのか。

千代田図書館長： 観光客が訪れることはない。観光協会で紹介しているのではないか。

会長： コンシェルジュは関わらないのか。

千代田図書館長： 観光客ではないが、外国人対応としては、区から貸与された通訳タブレットを活用した対応をしている。

会長： 日比谷も観光客は來ないのか。

日比谷図書文化館長： 日比谷も來てない。

会長： 今のところ観光客について意識していないということか。

千代田図書館長： そうである。

会長： 業務計画書 11 頁 質問No.34 の子ども読書調査の不読率の上昇についてはどうか。

ゼネラルマネージャー： 平成 28 年度の不読率は、小学生は 1.5%で、平成 29 年度が 2.2%、中学生に関しては、平成 28 年度が 4.7%、平成 29 年度は 6.1%に上昇しているが、人数に換算すると小学生は 10 名で、中学生は 4 名ということになる。この不読の理由が全体への対応策には結びつかないということもあり、不読率の原因追及はできていない。

また、親子参加のイベントで、不読率改善に対する効果を測ることは難しい。本に関心のある人たちがイベントに参加しているので、少し視点を変えていかなければいけないと考えている。対策としては、学校支援の担当司書が、学校の先生から情報を提供してもらい、対応をとっていくしかないと思っている。これまで以上に学校への支援やイベントの充実に心がけていきたい。

会長： 次、質問No.35 「ちよびたブログ」のアクセス数はどのくらいか。

ゼネラルマネージャー： ページビュー (PV) という形で数字を出している。平成 28 年度 1 年間で 17,147PV、月単位では 1,429PV となっている。さらに 1 記事当たり直すと、286PV となっている。平成 29 年度は 11 月からホームページが停止していたため、データは 4 月から 10 月までのものになるが、年間で 13,534PV、月当たり 1,933PV となり、1 記事当たり 387PV で前年度より増えている。今年度についても、11 月の時点で 1 記事当たり 400PV を超えており、それなりに効果はあるのではないかと考えている。

会長： 業務計画書 12 頁の質問 No.36 のコンシェルジュについて、多様な利用者に対



する接遇力の習熟とは、具体的にどのようなことか。

ゼネラルマネージャー： 接遇力の習熟ということは、常に適切な言葉遣いや案内のあり方を研鑽する必要があると認識している。そのため、館内規則を正しく理解し、利用者が望んでいることをいち早く察知する能力を高めることが、個人のスキルアップには必要だと思っている。合理的配慮が必要な来館者に対する適切な対応も個人の資質によるものだと思っているので、サービス業の基本能力の習熟を目指したいと考えている。

千代田図書館長： 図書館は非常にクレームが多い施設で、昨年も、クレームで病んで退職に追い込まれた職員もいる。様々なクレームに対応できるスキルを持たなければならないが、非常に厳しい現状があるということはぜひ知っていただきたいと思う。

会長： 次は、質問No.37の東京オリンピック・パラリンピックに向けての来館者対策や防犯対策はどうか。

ゼネラルマネージャー： 区から貸与されている通訳タブレットなどを活用することを考えている。盗難防止については、防犯カメラの増設のほか、盗難防止のアラームが、千代田と日比谷しか設置されていないので、他館にも導入できるよう区と協議をしていきたい。

会長： 業務計画書 13 頁の質問 No.38 のシステムのセキュリティ体制の運用とはどのようなものか。

ゼネラルマネージャー： 責任の所在の明確化と、現場の状況把握を図るため、ゼネラルマネージャーを5館の統括責任者、各館の情報セキュリティ管理責任者を各館長とし、各館からの委員とで情報セキュリティ委員会を設置している。年2回の委員会開催と、情報セキュリティに関する各館への監査を年に1回実施している。監査委員は内部ではあるが、第三者的な目で情報セキュリティに関する監査を行っている。また、個人情報保護を含めた合同研修会も年1回開催し、職員個人の意識を上げていくよう取り組んでいる。

会長： では次、業務計画書 14 頁の質問No.39の図書館実習生の受け入れとは。

千代田図書館長： 資料を配付する。今年度は、公募し、区内大学の司書課程を履修している実習生を千代田で2名、日比谷で3名受け入れている。四番町では、中学生の職場体験の受け入れのほか、小学生を対象に子ども一日図書館員の実施をしている。

会長： では、業務計画書 15 頁 質問No.40 の利用者アンケートの回収率の違いについて見解を伺いたい。

ゼネラルマネージャー： 四番町は地元密着の図書館であるため高い回収率となっている。千代田と日比谷は、区外からの来館者が圧倒的に多いため、四番町ほどの回収率に至っていないと思われる。アンケートの場合、統計学的に一定の人数がいれば、誤差は少ないということで、千代田と日比谷の回答人数は、300 から 450 程度あることから、ある程度信頼できる結果が出てくるのではないかと考えている。

委員： アンケートの配付や回収方法は統一しているのか。

ゼネラルマネージャー： アンケート用紙を閲覧席に置くほか、出入り口で配布し、帰りにアンケート用紙を入れてもらうという方式で行っている。

会長： では、業務計画書 16 頁の質問No.43 職員に対する配慮について。

ゼネラルマネージャー： 図書館での役職はあるが、各社の中での役職制度に則って進めている。また、

現場対応は非常に大変なので、一定レベル以上の対応については、現場の上司等が責任者レベルで解決することで、現場職員が委縮しないよう配慮している。

会長： 次は、日比谷の業務計画書、質問No.45 禁帯出の本について、盗難や切り抜き等の防犯上の被害は出ないか。

日比谷図書文化館長： 電話帳（タウンページ）の切り抜きが2回あったので、配架場所の見直しを行い、巡回も増やした。また、死角を失くすため、現在、防犯カメラの増設について区と協議している。

会長： 次は、業務計画書 17 頁の質問No.48「アメリカンセルフ」について

委員： その前に、質問No.46 日比谷の雑誌の貸出と、質問No.47 の配架場所の表示についても取り上げてほしい。

日比谷図書文化館長： 雑誌の貸出については、来館したときに必ず雑誌があるということは日比谷の魅力の1つにもなっている。5館一体といっても、各館の特徴があると思うので、これからも方針は堅持していきたいと考えている。ご要望として伺う。

また、配架場所の表示については、新システムになり、4文字までの表示になっているため、システムの追加は難しい。こちらもご要望として伺う。

会長： それでは、業務計画書 17 頁の質問No.48「アメリカンセルフ」について

日比谷図書文化館長： 協定に基づく連携は、アメリカ大使館のみである。

委員： 千代田区内のイギリス大使館やインド大使館との連携の予定はないのか。

千代田図書館長： 予定はないが検討したい。

会長： 業務計画書 18 頁 質問No.49 の特別展大正モダニズム展の相乗効果について。

日比谷図書文化館長： 東京ステーションギャラリーの夢二繚乱展より1ヵ月程度遅れて開催し、6,000人程度の入場はあった。東京ステーションギャラリーは毎日、平均で約900人、日比谷は100人程度でその差は大きい立地等も違う。相乗効果については正直不明である。

委員： 関連書籍の貸出数は増えていないのか。

日比谷図書文化館長： 貸出は伸びたと聞いているが、具体的な数値は用意できていない。

会長： では、業務計画書 19 頁 質問No.51 モーニングセミナーの開催については。

日比谷図書文化館長： モーニングセミナーは300回記念で、12月13日(木)と12月20日(木)の2回をスタジオプラスで開催する。それ以外は特別研究室の中で開催している。

会長： では、業務計画書 20 頁 質問No.52 の蔵書の修復についてはどうか。

日比谷図書文化館長： 特別研究室の資料は、全て市販されていたものなので、国立国会図書館や、大英博物館などで所属しており、文化財になるものはない。特別研究室開設の際、直接手に取って見てもらうことを目的としており、燻蒸や製本などを行い活用保存していく。

会長： 次は、日比谷カレッジについて、質問 No.53 の収入予算についてと、No.54 の受講者の区民割合についてお願いしたい。

ゼラルマネージャー： 収入予算については、平成30年度から、古文書講座の予算を指定管理事業予算から外したことが減額になった大きな理由である。古文書講座は事業規模が大きく、収支予算への影響も大きいことから自主事業扱いになった。

日比谷図書文化館長： 区民の受講については、概ね、千代田区民は7%前後、在勤者は17%前後で、直近の講座では、在学者は0であった。在勤者より横浜、埼玉など東京都外の

方の参加も多い。

委員： 区民割引はないのか。

日比谷図書文化館長： 区民割引がある講座もある。また、近隣に「ちよくる」というコミュニティサイクルのポートを設置してもらうなど区民対応を行っている。

会長： 業務計画書 21 頁 質問No.56 の広報誌については。

日比谷図書文化館長： 「ポモーヌ」という情報誌については、都立日比谷図書館から区立日比谷図書文化館として開設するまで2～3年期間が空いてしまったことから、他区の中央図書館のほか、区の関連施設や周辺のビルなどへの周知を目的に始めたものである。「ポモーヌ」の目的は情報収集媒体というより、日比谷図書文化館の認知度をあげるための情報誌として15,000部発行し、約半数は区外に配付している。ホームページと位置づけが異なるため、単純に比較することはできない。

会長： では質問No.57 文化財の講座の参加人数について、区から回答いただきたい。

文化振興課長： 毎年2つの出張所を回って出前講座を開催しており、先月、「神保町を知る講座」を開催し、30名程度参加していただいている。他の講座も30～40名程度の参加があったが、「万世橋地域の指定文化財」については、参加人数が3名であった。案内チラシ作成が遅れ、広報不足の結果であると認識している。町会関係等への広報も必要かと思っている。

会長： 業務計画書 23 頁の質問No.58 活動報告書作成で区民がどの程度利用しているか数値は示せないのか。

委員： インターネット席の利用数や貸出冊数、先ほどの日比谷カレッジの参加者などの区民利用の数値を出して欲しい。

ゼネラルマネージャー： 統計を取っているものや申込を受けるものについては、区民利用の数値を出すことは可能なので、活動報告に掲載することも検討する。

会長： では、業務計画書 25 頁の質問No.60 レストラン・ショップ&カフェについて。

ゼネラルマネージャー： 収支がぎりぎりの状況のため、新しいサービスの提供は難しい。現在の割引サービスも利用が少ないと聞いている。

また、予算については、10月時点の売上は昨年度実績並みに推移しており、予算はクリアできるペースである。

会長： 業務計画書 26 頁の質問No.61 は先ほどと係わるが、海外の図書館などと提携や連携などグローバルな観点から回答いただきたい。

千代田図書館長： 先ほどのアメリカンシェルフについては、アメリカ大使館の予算で、日比谷のほか四番町は児童書を中心にいただいている。資料以外では、今年度初めて、千代田図書館でナショナルジオグラフィックの展示でお世話になった出版社がつくっている英語の本についての講座を開催した。また、海外ではないが、毎年「板橋区立いたばしボローニャ子ども絵本館」から資料を提供してもらい、海外の絵本を展示して、海外の文化を発信している。

会長： それではNo.62 の四番町の建替えについては、区から回答していただきたい。

文化振興課長： スケジュール的には、来年12月末までに移転をしなければならぬため、現在、四番町図書館近隣で仮移転先を探している。また、移転作業を行うため、一定期間休館せざるを得ないと考えている。仮移転先をなるべく早く決定し、ご案内していきたい。

会 長： では、質問 No.63 のブックシャワーや、質問 No.64 からNo.84 の資料収集計画については、先ほど回答いただいたので、最後に、質問No.85 からのシステムに対する要望等について、どのように対応しているのかをお答えいただきたい。

千代田図書館長： 毎月のシステム定例会で、所管課、開発事業者と一緒に現場から出てくる様々な課題に対する対応について検討している。

会 長： それでは、以上で質問いただいたことについての確認は終了したい。

#### 4 その他

< (1) 提言に向けた意見・要望等の作成(依頼) >

会 長： 本日の議事録がまとめ次第送付いたしますので、昨年度と同様に、皆様からご意見をいただき、評議会からの次年度に向けた提言としてまとめさせていただきます。A4用紙1、2枚程度にご意見をまとめていただき、来年1月18日(金)までに事務局へ提出いただきたい。

< (2) 次回日程 >

文化振興課長： 第3回評議会開催は3月中旬を予定している。詳細は事務局からお知らせする。

< (3) その他 >

事務局： 源泉徴収票を作成するにあたり、区に届け出ている住所に変更が有る方は、申し出ていただきたい。

文化振興課長： それでは、本日の評議会を閉会する。